

**第1回 第2次神崎市総合計画審議会
議事録**

- 日時：2017年7月21日（金）15:00～16:40
- 場所：神崎市役所本庁 3-1会議室
- 参加者：（敬称略）
 - 【委員】佐藤知美（市議会議員）、野副芳昭（市議会議員）、西原正剛（市議会議員）、福山秀幸（JAさが神埼地区）、古賀義治（神崎市商工会）、山本秀治（佐賀東部森林組合）、吉原俊樹（神埼町地域懇談会）、芦原宏海（脊振町地域懇談会）、副島英樹（神崎市教育委員会）、内村夏生（神崎市市長会）、平島 平（神崎市身体障害者福祉協会）岸川洋子（神崎市母子保健推進協議会）、古賀俊弘（神崎市老人クラブ連合会）、姉川博幸（西九州大学）、中島信行（公募委員）、柳川和政（公募委員）、山田照彦（公募委員）
 - 【事務局（企画課）】宮地丈二、鶴 成晃、篠木大輔、長田 剛
 - 【神崎市】神崎市長 松本茂幸
 - 【ランドブレイン】山田快広、岩切 翔、吉山淳子〔記〕
- 欠席者：（敬称略）
 - 【委員】江頭啓子（千代田町地域懇談会）
- 傍聴者：（敬称略）
 - 前山拓哉（建設新聞社）
- 内容：
 1. 開会
 2. 委員の委嘱（委嘱状交付）
 3. 市長のあいさつ
 4. 審議会委員の紹介
 5. 会長・副会長の選出
 6. 諮問
 7. 議題
 - （1）第2次神崎市総合計画の策定方針、スケジュール等について
 - （2）市民アンケート調査について
 8. その他
 9. 閉会

（以下議事録）

1. 開会

2. 委員の委嘱（委嘱状交付）

- ・ 市長より委嘱状交付

3. 市長のあいさつ

- ・ 神崎市が誕生してから10年が経過し、第1次総合計画をもとに業務を進めてきた。その中で掲げたものには、希望通りに実現できたこともあればできなかったこともある。第2次計画において次の10年間を考えるにあたり、職員自らが策定に携わりながら、神崎市民でもある審議会委員の皆様の力を借りていきたい。
- ・ 庁内、審議会はもとより、市民とともに総合計画を作り上げていくことを最も重要視したいと考えている。市民自身が後悔しないためにも思考を巡らせ、良いアイデアを実現して

いくために、どのようなアプローチを取ればよいかを、市民と行政が一体となって考えていきたい。

- ・ 以上を神埼市のまちづくりの設計図としてこの場で審議を行った上で、まちづくりを進めていきたい。職員や市長が変わってもその方針は変わらずに、皆さんが計画策定に携わられたという思いのもと、まちづくりを継続できるような仕組みづくりにつながればと思っている。

4. 審議会委員の紹介

- ・ (省略)

5. 会長・副会長の選出

- ・ 会長及び副会長について、選出等についてご意見を頂きたい。(事務局)
 - － 事務局案を提示いただきたい。(委員)
 - － 事務局案としては会長に芦原委員、副会長には姉川委員にお願いしたい。(事務局)
 - － 異議なし。(全委員)
 - － それでは決定する。会長、副会長に挨拶をお願いする。(事務局)
- ・ 芦原会長挨拶
 - － 第2次神埼市総合計画策定は、今後10年間の神埼市のまちづくりの方針づくりと認識している。委員の皆さまの忌憚のない意見をいただきながら役割を全うしていきたいと考えている。
- ・ 姉川副会長挨拶
 - － 第2次神埼市総合計画の策定についてより良い審議ができるよう努めていきたい。

6. 諮問

- ・ 市長から、芦原会長、姉川副会長へ諮問書を交付

市長退席

7. 議題

(1) 第2次神埼市総合計画の策定方針、スケジュール等について

- ・ 事務局から議題(1)について説明

(議長)

質疑を求める。

(委員)

現行計画策定にあたって審議会委員として関わっていた。現行計画について、計画通りに進まなかった施策もあるはずだが、そのような結果を総括していき、反映するためにどのような過程を想定しているのか。

(事務局)

第2次総合計画の策定フローにおいて、関係各課の職員へヒアリングシートを配布する。その上で現行計画の総括を行い、今後の施策検討のために分析を行う。その結果については、9月に開催する第2回目審議会にて共有したい。

(委員)

神埼市の様々な団体、立場にある委員が集まっている審議会で議論をするタイミングはあるのか。

(事務局)

市民ワークショップの結果などを踏まえて委員の意見を伺うなど、議論の場を用意していきたい。

(委員)

市民協働のまちづくりは第2次計画においても引き続き取り組むものなのか。

(事務局)

まちづくりは行政だけでなく、市民や各種関係団体との協働のもと、オール神崎で取り組まなくてはならない。協働というキーワードは、神崎市のまちづくりの指針となる第2次計画においても必須のものと考えている。

(委員)

専門委員の設置は検討しているのか。

(事務局)

必要に応じて設置を検討する。

(委員)

基本計画は基本構想をもとに作成するとされているが、資料3のスケジュール表を見る限り同時進行なのでは。

(事務局)

基本構想とは長期的な視野に立ち、基本的な理念などの大枠や大綱をまとめるものである。一方で、基本計画は基本構想に掲げる将来像の実現のための細やかな施策や展開の考え方を盛り込みながらも、社会変化に対応するものであり、5年ごとの策定としている。

(委員)

市民アンケートの調査結果は、パブリックコメントによって変わることはあるのか。

(事務局)

パブリックコメントは基本構想、基本計画が出来上がった時点で募集をするため影響はない。アンケートは市民の思いや期待を資料として使用するために実施するものであり、今後の10年間に反映する要素もあるかと思う。それを考慮し作成した基本構想、基本計画に対して市民に提示するのがパブリックコメントである。

(委員)

本編の作成が進行している期間に募集するパブリックコメントの意見はどのように反映されるのか。

(事務局)

パブリックコメントを受けての改善は重要であるため、進行状況を共有しながら適正な期間を設けたい。

(委員)

市民ワークショップが計画策定において大きなポイントになると思う。ワークショップで吸い上げたものを反映していくために、どのような形を想定しているのか。世代や性別、職業が異なる人たちの意見を集める方法や、プロのファシリテーターを活用するなどしっかりやっていただきたい。また、ワークショップでのテーマはピンポイントで設定し、市民が当事者となって考えるようにしてほしい。

(事務局)

ワークショップには若い人や女性など様々な層に来てもらう方法を検討していく。

(委員)

スケジュール的にきついと思うが、審議会の回数を増やし将来の神崎市をこうしたいという思いを自由に議論する場を設けてはどうか。

(事務局)

今後のスケジュールを考慮して決定したい。

(委員)

アンケートは何人に配布するのか

(事務局)

後ほどアンケートに関する説明をする。

(委員)

人口減少に関わる記載があるようだが 10 年後の神埼玉の人口のシミュレーションをした資料はあるのか。

(事務局)

現在手元にはないが、平成 27 年度に人口ビジョンを策定している。今回の基礎資料として反映していきたいと考えている。

(委員)

経済産業省や内閣府は RESAS の使用を推進しているが、2050 年には地方の市町村の 2 割は消滅し、6 割は人口が半減すると言われていた中で、アンケートとともに重要な情報になる。市町村の生き残りは若者、つまりパイの取り合いであることを認識し、若者の定住を重視して神埼玉の今後について話し合うべきである。

(事務局)

人口減少は今後の神埼玉の生き残りについて重要なキーワードであると考えている。各種基礎データはしっかり分析していきたい。

(2) 市民アンケート調査について

・事務局から議題 (2) について説明

(議長)

質疑を求める。

(委員)

送付対象が 80 歳以下とのことだが、90 歳以上といった高齢者は除外するのか。高齢者でも元気な人、神埼玉に愛着のある人は多くいる。

(事務局)

幅広い層の意見を聴くのは重要だと認識している。しかし、無作為抽出という条件を考慮し、後期高齢者は 75 歳以上だが、80 歳までと設定させていただいた。

(委員)

回収率を上げるための方法としてどういったことを考えているか。

(事務局)

親しみやすくするためにアンケート用紙には市のキャラクターを取り入れたことと、

回答しやすいよう回答時間は 10 分目安とした。また、郵送のほか市役所でも回収できるように、庁舎・支所に窓口を設けることを検討している。

(委員)

おおむね結果は前回と変わらないと思われるが、前回結果との比較を知りたい。

(事務局)

前回との相違として削除した質問、新設問がある。比較できる項目については、比較分析を行えるよう研究したい。

(委員)

神崎市は市長と語る会を実施しており、課長クラスも同伴している。第 2 回目の審議会時にはまとめを提示することは可能か。

(事務局)

実際に現場で聞いた貴重な意見として担当課と調整中であるが、アンケートと同等という形で集約していきたいと考えている。まちづくりという観点に役立つ声をピックアップして提供できるよう、次回審議会で共有できるよう努力したい。

(委員)

2000 人ではなく、人口の約 10%として 3000 人に出すのはどうか。

(事務局)

対象が多いほど有効な回答が得られやすいのは認識しているが、神崎市と類似団体である、小城市は 2000 人を対象に回収率が 42.6%、嬉野市は 2000 人を対象に 39.0%、大分県杵築市は 2000 人を対象に 45.6%であった。このように、2000 人対象を採用している自治体もあり、他の自治体と同様という考えはないが、統計上問題ないと考えている。また、今回はアンケートに加えて市民ワークショップを行うことで、より多くの声を聞いていくつもりである。

(委員)

目的は意向調査であるが、1 人でも多くの市民が関わりを持つことは大事である。アンケートタイトルを「市民まちづくりアンケート」といった表現に変えたり、市民一人ひとりが主役というイメージを出したりしてはどうか。また、市長の言葉を簡易にするなど、回答したくなるアンケートのイメージを検討してほしい。

(事務局)

再度事務局で検討するという事で事務局に一任していただきたい。

(委員)

80 歳以下が対象とのことだが、神崎市の年齢構成を考えると、数千人単位でいるのでは。

(事務局)

前回も同条件で実施したため、経年変化を確認するためにも対象を統一したいと考えているが、検討したい。

(委員)

現行計画の施策動向は次回の審議会では共有されるのか。予算などのハードルもあるためすべてが思い通りにいったとは思わないが、それも含めて第 2 次計画を考えていきたい。

(事務局)

現行計画の振り返りは重要であると認識している。事務事業評価を行う予定であるため、分析結果は報告していきたいと考えている。

(委員)

10年後、20年後の人口減少シミュレーションを年齢別で次回審議会で共有してほしい。また、問1の(4)2と3は特別に選定される想定なのか(神崎市でのお住まい状況)。

(事務局)

特別に選定することはないが、定住・移住を考える際の動向を把握し基礎資料として活用するための問として設定している。

(委員)

年齢よりも神崎市外で過ごした人の意見は、神崎市をよく見ている人だと考える。そういった対象を多く抽出するのはどうか。また、アンケートは住まいに関する設問が大半のようだが、地方創生に係るアンケートと認識してよいか。

(事務局)

神崎市外で過ごした人についてはそうかもしれない。アンケート自体は地方創生に特化しているということではなく、基礎資料として把握するために設問を考え、設定した。

(委員)

アンケートの趣旨は神崎市をより良いまちにし、多くの人に住んでもらうためのものという認識でよいか。

(事務局)

一部はそうように設問しているため、地方創生と関連する部分もあるかと思う。

(委員)

次の10年を考える計画というのは、その次の10年の地域を考えることにも繋がる。協働を問うにあたっては、その未来に地域を担う若い人が登場する場面を作らないといけない。また、問11のように縦割りで分野ごとに協働を考えることはもはや現実的ではなく、地域を一体的に考える思考が必要なのではないか。

(事務局)

直近の10年だけではなく、その先の10年を見据えた計画づくりであることは認識している。問11については、一般的にわかるような形で分野ごととしている。

(委員)

縦割りという協働はもうありえない。今すでに地域ですべてを考えていかなければいけない状況である。どういった形であれば次の世代も同様に取り組んでいけるかを考えなければ計画通りに進まないのではないか。

(事務局)

どのような協働のありかたがあるのか検討させていただきたい。

(委員)

大学でアンケートをやる時には全員に100%配布し、非常に高い率で回収ができる。アンケートは無作為抽出とのことだが、誰もが回答できるように庁舎などに設置するのはどうだろうか。

(事務局)

そういった方法も可能ではあるが、本アンケートは神埼市民のためのアンケートであり、公共の場に設置することで市外の回答も回収してしまうかもしれない。誰もが回答できるアンケートも有用であると思うが今回は無作為抽出で行いたいと考えている。

8. 閉会

(事務局)

次回審議会は9月ごろとする。

(以上)